

インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）ソウカダイガク	フリガナ）ケイザイガクブ	フリガナ）カンザカゼミ
創価大学	経済学部	勘坂ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 内動画 （有・無）	動画使用 スライドページ
フリガナ）アース	フリガナ）ヨネザワ マサトシ	5 人	無	
EARTH	米澤 雅俊			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物（例：商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート）

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

研究テーマ（発表タイトル）

大学生の未来を守る

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

本研究は、大学生の望まぬ妊娠が起こることを予防することを目的とする。現在の大学生は教育課程で性教育に対して大幅な制限がされており、現在の大学生の年代は避妊などの性に関する知識が不足している。私たちはこういった性に関する知識不足が望まぬ妊娠の原因であるとし、当事者でもある私たち大学生が大学生に向け性教育セミナーを行うことによって、性知識の定着をさせ、大学生の望まぬ妊娠を予防できると考える。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

日本の性教育は、2003 年に東京都立七生養護学校の性教育を都議会議員が批判したことに端を発し、内容に制約がかけられていった。2004 年には、東京都小中学校による「性教育の手引」で「性交」表記の削除、コンドーム装着方法の掲載の取りやめ等の形で改訂が行われた。同様の動きは文部科学省が定める学習指導要領にも影響を与え、2005 年には小学校保健科の教科書においても改訂が行われた。こうした日本の性教育が問題視された背景として「性教育を行うことによって、子どもたち

の性的関心を助長し、性行動が早まるのではないかと懸念する「寝た子を起こすな」という考えがある。しかし性教育後、性行動を早めたとする研究は 0%の一方で、37%で性行動に対して慎重になったとの研究成果が出ている。（ユネスコ『国際セクシュアリティ教育ガイダンス 2018』より）

現大学 4 年生にあたる 1996 年生まれの学生は、小学校保健科教科書の改訂が行われた 2005 年当時、初めて初経・精通について学ぶ小学校 4 年生であったため、現大学生は性教育の内容が制約された年代であると考えられる。

独自で全国の男女大学生 304 人を対象に行った基本的な性の知識に関するアンケート調査（実施期間：2018 年 8 月 13 日～19 日、調査方法：web）によると、11.6%の学生が「膣外射精は確実な避妊法である」と回答。また、34.6%の学生が「ピルではエイズウイルスや性感染症を予防できる」と回答し、その他の項目を含めた全 5 項目で不正解の割合は平均約 22.5%に上った。

現大学生は内容を制約された性教育を受け、基本的な性の知識が不足しているにも関わらず、大学生は性に直面する年代でもある。性交経験率を調べた調査では、男女高校生がそれぞれ 13.6%、19.3%に対して、男女大学生はそれぞれ 47.0%、36.7%と割合が増加している。（日本性教育協会『青少年の性行動 わが国の中学生・高校生・大学生に関する第 8 回調査報告』より） また、都内大学 38 校（有効回答数：17）に対して、大学の性に関する取り組みに関するアンケート調査（調査期間：2018 年 8 月 27 日～9 月 3 日、調査方法：電話と書面）によると、過去に性に関する啓発活動を行ったことがある大学は 6 校、そのうち毎年啓発活動があると答えたのは 1 校で、大学でも性について学べる機会が少ない現状にある。

3. 研究テーマの課題

上記の現状分析より私たちは、性教育に対して制限があることによる、現在の大学生の性知識不足が問題であると考え。これらはやがて望まない妊娠を引き起こし、大学生の人生設計を台無しにしてしまう可能性がある。したがって、私たちは、望まない妊娠を防ぐための、正確な性知識を得る機会をつくることを本研究の課題とする。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

上記の課題を解決するために、私たちは大学で、大学生主催の大学生のための性教育セミナーを提案する。

セミナーでは主に望まない妊娠を防ぐためのコンテンツを扱っていく。これを実現するために、産婦人科医の監修の下、避妊方法、妊娠リスク、避妊に対する意識を啓発する情報を製作する。

このようなセミナーを施策として提案した理由は 3 点ある。

1. 独自に全国の男女大学生 304 人を対象に行った基本的な性の知識に関するアンケート調査（実施期間：2018 年 8 月 13 日～19 日、調査方法：web）の中で、あなたは性に関する情報を、主にどこから得ていますかというアンケートを取ったところ「インターネット」が 53.3%で最多、続いて「友人」が 21.1%となっており、約 7 割の学生が確実とは言い切れない情報源から情報を得ている現状がある。そのため、確実な情報源である産婦人科の方の監修をいただいたセミナーを学生に提供する。
2. 先ほど現状分析で述べたように、大学の性に関する取り組みのアンケート調査の結果、大学で性についてのセミナーなどを行っている事例が少なく、大学生が性の知識を得る機会が少ない現状があると考えた。そのため、大学で行う意義がある。
3. 前述のしたように、性交経験率を調べた調査（日本性教育協会『青少年の性行動 わが国の中学生・高校生・大学生に関する第 8 回調査報告』より）では、中学生・高校生と比べ、大学生になると性交経験率が大幅に上がるため、性に直面している大学生に対して行う意義がある。

以上の理由から、この施策を提案することにより、研究テーマの課題を解決できると考える。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

第 1 回性教育セミナー「学校では教えてくれない性のはなし」（開催日：2018 年 9 月 14 日、以下「第 1 回セミナー」という）を開催し、21 名の学生が参加した。主なプログラム内容としては、①男女のからだの仕組み②具体的な避妊方法について取り扱い、その内容として、①月経周期と排卵・男性の正しいマスターベーション②ピルの効果とコンドームの装着方法についてそれぞれ取り扱った。加えて、セミナー開催前後で性の知識に関する○×クイズを製作しセミナーの前後で正答率を出すことにした。

セミナー開催にあたり、産婦人科医様に交渉を行った結果、医療法人社団友久会 池下母と子クリニック院長の本山妙子先

生にセミナーの内容を監修していただくことが決まった。

NPO 法人ピルコン理事長の染谷明日香様と話し合いを行い、セミナーの内容に関してアドバイスを頂くことで、これからの活動にも協力していただけるとの話を頂いた。

アンケート調査の実施を大学と生徒に対して行った。東京都の大学～校に対しアンケートを行い、メールと FAX による、大学での性教育実施状況の調査を行った。アンケート結果によって、大学の取り組みとして定期的に性教育を十分に提供できていないという現状がわかった。また、学生に対しては性に関する知識の有無の調査をオンラインで行い、304 の回答数を得ることができた。

6. 結果や今後の取り組み

私たちが実行した〇×クイズアンケート結果は以下の通りである。

創価大学の学生を対象とした性教育セミナーには 21 名の学生が参加した。セミナー開催前後で性の知識に関する〇×クイズを行なったところ、事前に行った〇×クイズでは 4 問中の正答率が 41.7%であったのに対して、セミナー後の〇×クイズでは 4 問中の正答率が 95%に達した。またセミナー参加者からは「性事情を真面目に、真剣に学ぶ姿に感動した」「今まで学校で、はぐらかされて知ることができなかったことを知ることができた」など、これまでタブー視されてきた性教育の軽減を伺えるコメントを得ることができた。実際にこのセミナーを通して、第 1 回セミナー事後のアンケートでは 18 人が回答し、「正しい性知識を得る手段としてこのセミナーは有効であるか」という問いに対して、思う・やや思うと回答した人が合計 100%であった。さらに「またこのようなセミナーがあれば参加したいか」という問いに対しても、思う・やや思うと回答した人が合計 100%であった。

第 1 回性教育セミナーでの反省点として参加者の割合が男女の偏りがあったこと、男性と女性の性情報の偏りがないように述べ情報の二面性を持たせることや参加する人のハードルを下げる広告方法の見直しが挙げられる。

今後、産婦人科の先生に内容の監修をしていただき、より充実したセミナー内容を作っていく。また広報やセミナー運営などは、過去多くのセミナー開催実績のある NPO 法人ピルコン様からアドバイスをいただき、改善していきたい。

7. 参考文献

- ・小学校『学習指導要領』
- ・中学校『学習指導要領』
- ・高等学校『学習指導要領』
- ・講談社（2018）『日本が性教育の「後進国」になりつつあるのをご存じですか』

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/55432?page=2>

2018 年 9 月 13 日アクセス

- ・日本性教育協会(2018)『青少年の性行動 我が国の中学生・高校生・大学生に関する第 8 回調査報告』

<http://www.jase.faje.or.jp/pub/seikoudou8.html>

2018 年 9 月 13 日アクセス

- ・ピルコン（2018）『NPO 法人ピルコン活動報告書』

- ・ユニチャーム『若者たちの性事情と世界の性教育』

<http://www.unicharm.co.jp/girls/family/gender/01.html>

2018 年 8 月 11 日アクセス

- ・橋下紀子 2018『教科書に見る世界の性教育』かもがわ出版。

- ・朝日新聞（2018）『中学生への性教育、どうしたらいいの？』

<https://www.asahi.com/articles/ASL4C5K16L4CUTIL04K.html>

2018 年 9 月 13 日アクセス

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経 BP マーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HP などに発表されていない)ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナル関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください